

# 布教教化に関する告諭

今、世界が抱える諸問題は、複合的かつ重層的な状況は、広がる一方と言っても過言ではありません。

一仏兩祖を信奉する私たちは、確かな道を知っていなければならないのです。

お釈迦さまは縁起の理法をさとられ、一切を正しく観察される智慧と、他者との和合調和は慈悲によって成ることを、身を以てお示しく下さいました。それは、我利・我欲を離れる私たちの生き方だったのです。

道元禅師は「回光返照の退歩を学すべし」とお示しです。

歩みを止め、息を調え、二歩も三歩も退いて、自らが行いを仏道に照らし謙虚に顧みよ、と説いておられます。

瑩山禅師は「必ず和合和睦の思いを生ずべし」と示されました。

和合調和を乱すのは、何時の世も人間の我利・我欲、すなわち貪りであり、その貪りこそが苦悩の源であり、対立闘争の根源なのです。

無常無我の世なればこそ、日月は私無く一切を照らしております。私たちも、至心に万事万縁と関わってゆきたいものです。

合掌は、御仏に自らを重ね合わせることです。そして、御仏をこの身に頂く坐禅に親しみ、世界中の人びとが誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせるよう、祈り、念じ、共どもに菩薩行を進めてまいりましょう。

合掌

南無釈迦牟尼仏

南無高祖承陽大師道元禅師

南無太祖常濟大師瑩山禅師



令和七（二〇二五）年四月一日

曹洞宗管長

みなみさわ どうにん  
南澤道人

曹洞宗は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

